

# いのちを産むところ

高知工科大学 工学部 社会システム工学科  
1090429 奥宮愛子

## ◇社会的背景

### ・産婦人科の歴史

1950年代には90%以上が助産師による自宅出産だったがGHQの政策などにより、出産は診療所・病院の施設出産で医師の手によって行うものと位置づけられた。その結果、自宅出産と施設出産の割合は逆転し1970年代以降、現在まで90%を超える出産が病院・診療所で行われるようになった。そして施設出産が台頭してくるのに比例して新生児の死亡率も低くなった。救われるいのちが増えた一方で、必要なとき以外でも帝王切開などの手術が介入してしまう風潮が起こり、妊婦さんが自身の力で子どもを産むことが難しくなっている。

### ・産婦人科建築

現在の産婦人科建築はスタッフの動線や管理のしやすさを優先させたものが多く、定期検診の外来部門と出産後の入院部門とが異なるフロアで構成されている場合が多い。そのため、検診で訪れる妊婦と産後間もない女性とが顔を合わせることはほとんどない。

## ◇動機

このような背景を踏まえ、産婦人科医院とはただ医師側から一方的に妊娠生活を指導し、医学的に無事出産する機能を持つだけの建物ではなく、妊婦や母親同士で妊娠生活から出産、育児まで連続した流れの中での不安や悩みを解消したり、情報交換をしたりする空間も必要ではないかと考えた。



北側の道路から南に敷地を見る

## ◇敷地

高知県中東部に位置する香南市野市町西野の一角を敷地に選んだ。西野は国道55号線やごめん・なはり線が走っているほか、香南市役所や野市町立図書館、高知県立青少年センターなどがあり交通や施設が整っている。敷地周辺は農地・住宅が広がっており、建物の高さは主に二階建てが多い。遠くの山まで見渡すことができる開けた土地である。

## ◇コンセプト


妊娠から出産までの流れを一つととらえ、入院と外来が機能的に分かれつつ共有できる場所も持った空間を提案する。

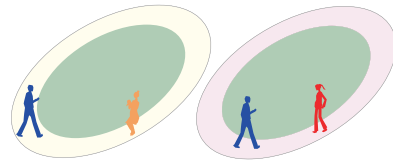
本計画では、中に外部空間を持つ2つのリングを組み合わせることで空間を構成している。周辺の建物の高さに合わせて一層とし、視覚的に開けた印象を持たせるため内外部に配している回廊はガラス張りになっている。回廊は患者とスタッフを分けるため、所室の片側や両側に必要に応じて配している。2つのリングの中心には共有空間である多目的スペースや読書スペース、キッズスペースがある。ここで勉強会や体験教室を開き、同じ時期に出産を控えた妊婦や産後の女性が交流する場とする。医師だけでなく同じ立場の女性同士で妊娠から出産まで支えあっていく環境をつくることで、女性自身の力で出産すること、新しいいのちを迎える準備ができるのではないかと考えた。



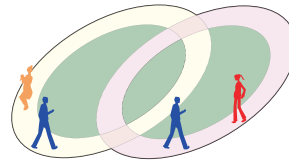
敷地周辺図 s=1/25,000

## コンセプトダイアグラム

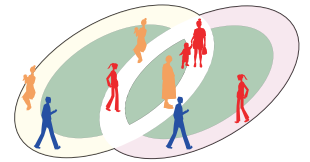
-  外来部門
-  入院部門
-  外部空間
-  外来患者
-  入院患者
-  従業員



リング状に入院と外来の2つのゾーンが同じフロアで独立して存在している。それぞれのリングは内部空間に外部空間を内包している。



この2つのリングを交わらせる。1つの連続した内部空間と3つの外部空間ができる。



交差したリングの中央は入院と外来の共有空間となる。また、3つの庭はリング全体を緩やかに繋ぐ装置となる。

## 空間構成を表したスケッチ

